

広島大学大学院人間社会科学研究科
人間総合科学プログラム（博士課程前期）
入学試験（令和7年8月実施）

受 験 番 号						
M						

問題用紙

専門科目

[一般選抜]

以下の問題にそれぞれ答えてください。

答えは解答用紙（1問につき1枚）に記入し、問題番号をそれぞれの解答用紙に必ず記入してください。

【問1】

ファンツーリズムは、近年ますます国際的な広がりを見せており、訪問者の移動行動や消費行動が地域観光資源の活用と密接に関わるようになってきています。こうした現象に対する、観光学およびモビリティ研究の観点から、ファンツーリズムの影響と課題について分析してください。

【問2】

特定の音楽グループやアーティストのファンが海外を訪れる際、航空機、フェリー、現地の公共交通など複数の移動手段を組み合わせながら観光行動を行うことがあります。こうした国際的なファンツーリズムの実態を明らかにするためには、どのような視点から調査を設計し、どのようなデータを収集・分析する必要があると考えられますか？具体的な方法論を交えて論じてください。

解答例

専門科目

[一般選抜]

【問1】出題意図

この設問は、次の力を測ることを目的としている：

- ・ ファンツーリズムという現象の定義と広がりに関する基礎理解
- ・ 観光学的視点（消費行動、地域観光資源活用など）での分析力
- ・ モビリティ研究（移動、トランスポート、空間使用）との統合的思考力
- ・ 影響と課題の両面をバランスよく論じる能力
- ・ 具体的事例を踏まえた説明力

◆ 解答例

ファンツーリズムとは、音楽・映画・アニメなどのコンテンツへの愛着や推し文化に基づき、関連する場所を訪れる観光行動である。特にK-POPを中心とした日本人ファンの韓国訪問は、国境を越えたファンモビリティの典型であり、イベントのみならず所属事務所、カフェ、ダンススクールなどを訪れるなど、多様な地域観光資源との接点を生んでいる。

観光学の視点から見ると、このようなファンツーリズムは地域経済への貢献や観光資源の再評価、SNSを通じた情報拡散など多くのポジティブな影響を持つ。一方で、消費が特定エリアに集中する傾向、移動手段や滞在時間の個人差、観光資源への関心の偏りなどが課題となる。

モビリティ研究の観点では、LCCやフェリーを使い分ける交通選択、現地での公共交通との接続、移動距離と観光行動の関係性などが注目される。したがって、ファンツーリズムを分析するには、観光行動・地域資源・移動手段の三位一体的な視点が求められ、これを通じて地域観光政策への示唆を提供することができる。

【問2】出題意図

この設問は、以下のような実証研究設計力を評価する：

- ・ 複合的な移動手段と観光行動の分析に必要な視点
- ・ 調査対象の設定・仮説構築・データ収集設計力
- ・ 質的・量的手法の使い分けや統合
- ・ ファン特有の行動様式（感情、忠誠、消費）に対する分析意識
- ・ 学術的かつ応用可能な調査フレームの提案力

◆ 解答例

国際的なファンツーリズムにおける観光行動の実態を把握するためには、まず「移動」「消費」「場所」の3要素を中心とした調査設計が必要である。とくにK-POPファンの韓国遠征は、航空機、LCC、フェリーなど多様な移動手段が交錯し、それが現地での訪問行動（事務所・聖地・カフェなど）と密接に結びついている。

調査対象は、韓国渡航経験のあるK-POPファン。主な調査手法としては以下の2つが有効である。

1. オンラインアンケート調査

- ・居住地、年齢、ファン歴、交通手段の選択理由（価格、時間、アクセス性）
- ・訪問先、滞在時間、消費内容
- ・地域観光資源の選定理由（映え、アクセス性、推しとの関係）

2. 仮説検証的アプローチ：

- ・交通手段の選択が訪問地の数や消費額に影響する
- ・滞在時間の長さが地域資源との関係性を深める
- ・地域資源の「SNS 映え」が行動決定に影響する

質的アプローチとしては、自由記述欄の回答分析や、ファンブログ・SNS 投稿などのエスノグラフィック分析も有効であり、数量的傾向の背景にある動機や価値観を可視化する補完的手法となる。このように、多角的なデータと分析視点を組み合わせることで、ファンツーリズムの「国際的移動の複層構造」と「地域観光との相互作用」を明らかにできる。